



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2021年3月期 決算補足説明資料

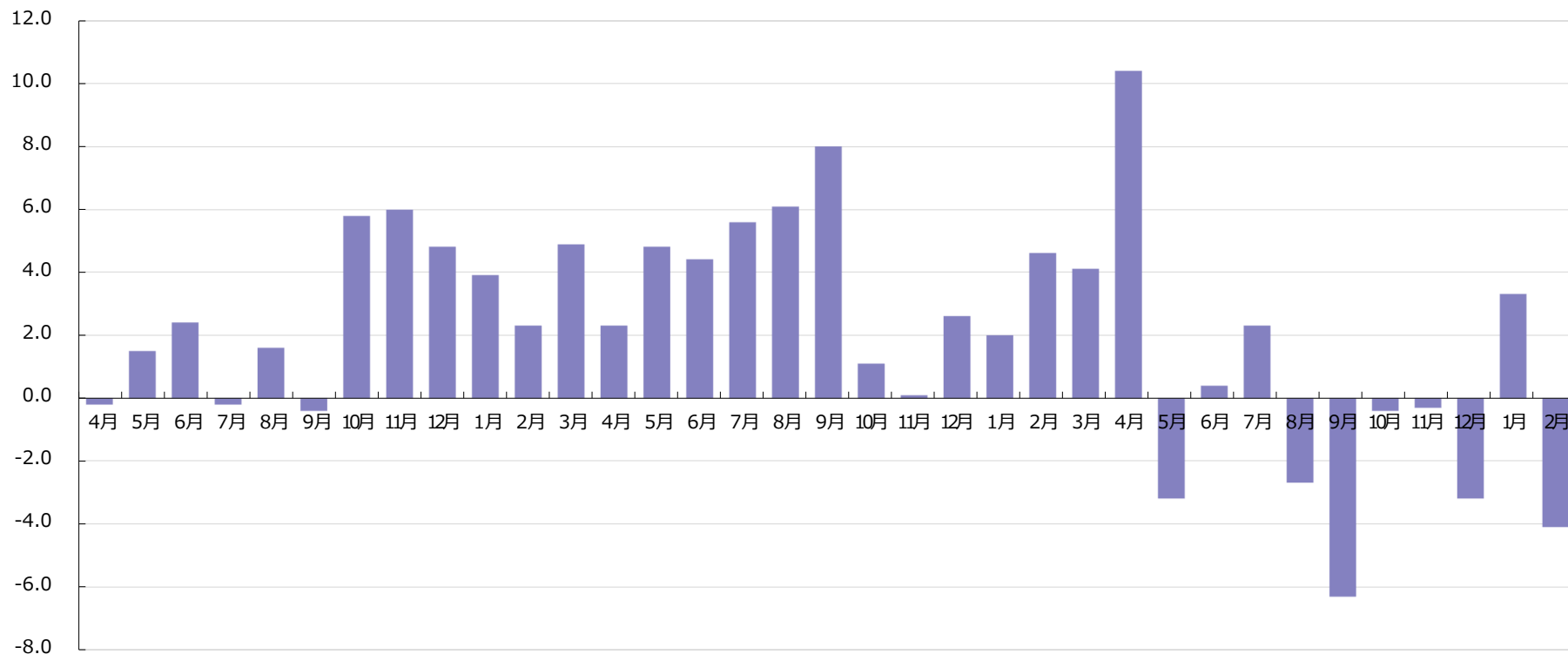
2021年5月13日

2021年3月期 決算概要

2021年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、2020年8月以降、1月を除いて減少しており、新型コロナウイルス感染症による影響が継続していると推察される。

2021年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で4期連続の増収増益

売上高	: <u>6, 525</u> 百万円	前期比	2.9%増		
営業利益	: <u>1, 011</u> 百万円	前期比	8.7%増	利益率	15.5%
経常利益	: <u>1, 054</u> 百万円	前期比	5.5%増	利益率	16.2%
当期純利益	: <u>727</u> 百万円	前期比	5.8%増		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は6期連続の増加

受注高	: <u>6, 744</u> 百万円	前期比	1.5%増
受注残高	: <u>2, 564</u> 百万円	前期比	9.3%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 宇宙先端システムB F、社会基盤システムB Fの売上高比率が上昇し、モバイルネットワークB F、インターネットB Fが減少するなど、需要構造の変化が継続した。
 - 2003年より注力してきたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発案件が増加した宇宙先端システムB Fと医療分野を含めた官公庁案件が好調な社会基盤システムB Fが大幅に増加した。
 - モバイルネットワークB FとインターネットB Fは、大型開発案件の減少や商談状況に迅速に対応した社内資源の再配分により減少した。
- 当初は新型コロナウイルス感染症による影響により受注高が前年同期比で減少していたが、通期では増加に転じ、それ以降の商談状況は回復した。

損益計算書

	2020年3月期 (百万円)	2021年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(10月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,343	6,525	102.9	6,450	101.2
売上原価	4,568	4,676	102.4	4,670	100.1
売上総利益	1,775	1,849	104.2	1,780	103.9
販売管理費	844	838	99.3	860	97.5
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	1,011 (15.5%)	108.7	920 (14.3%)	109.9
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	1,054 (16.2%)	105.5	960 (14.9%)	109.8
当期純利益	687	727	105.8	670	108.6

売上原価 社員数の増加や待遇向上などにより人件費が増加、外注費と仕入高も増加
(外注費 20.7億円、前期比2.1%増、売上高外注比率31.8%、前期32.0%)

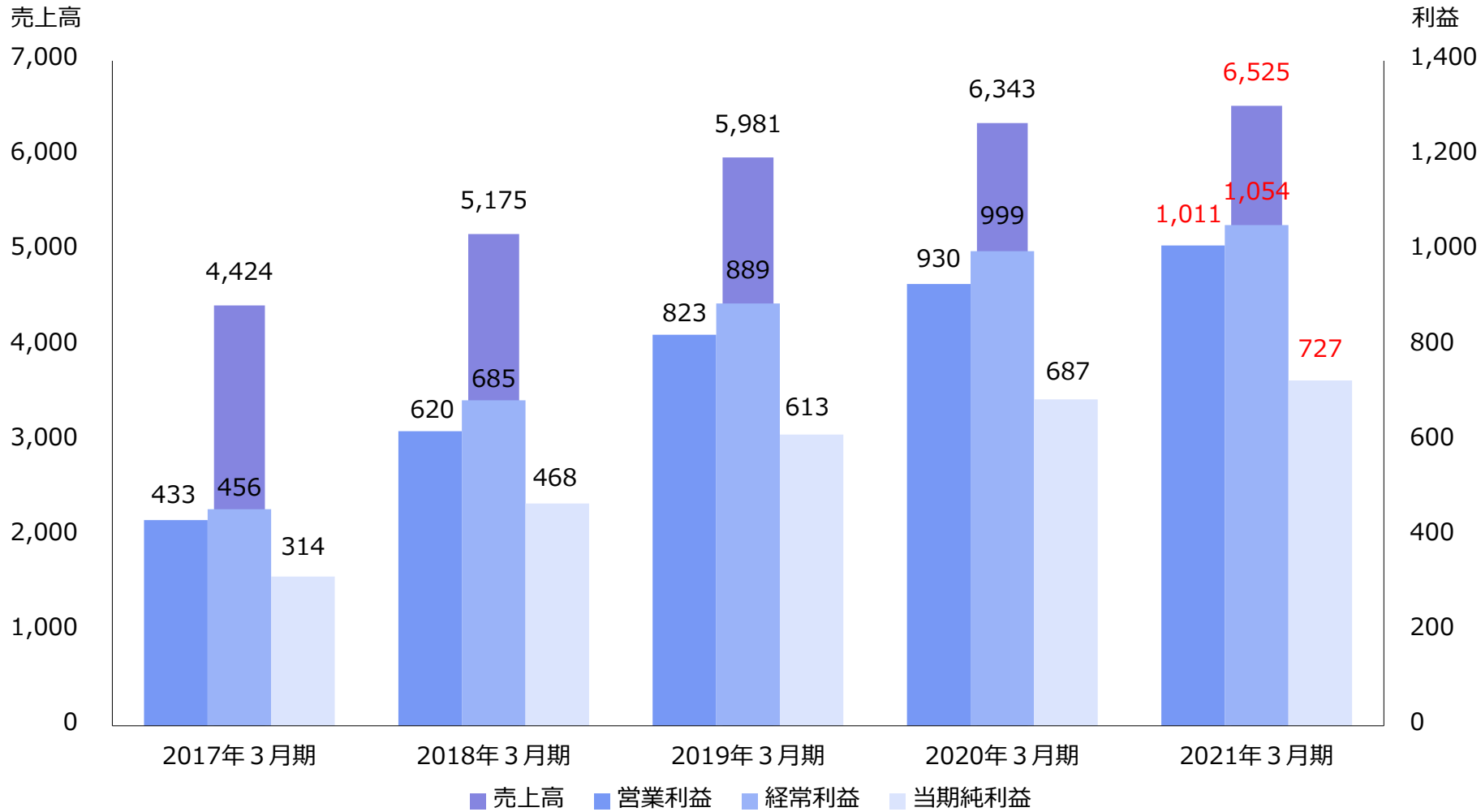
販売管理費 労務費や採用費などが増加したが、研究開発費が減少
(研究開発費は48百万円で、前期比で32.3%減少)

営業外損益 研究開発の補助金収入がなくなり(前期は20百万円)、受取出向料も減少

決算業績推移（過去5年）

4期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高

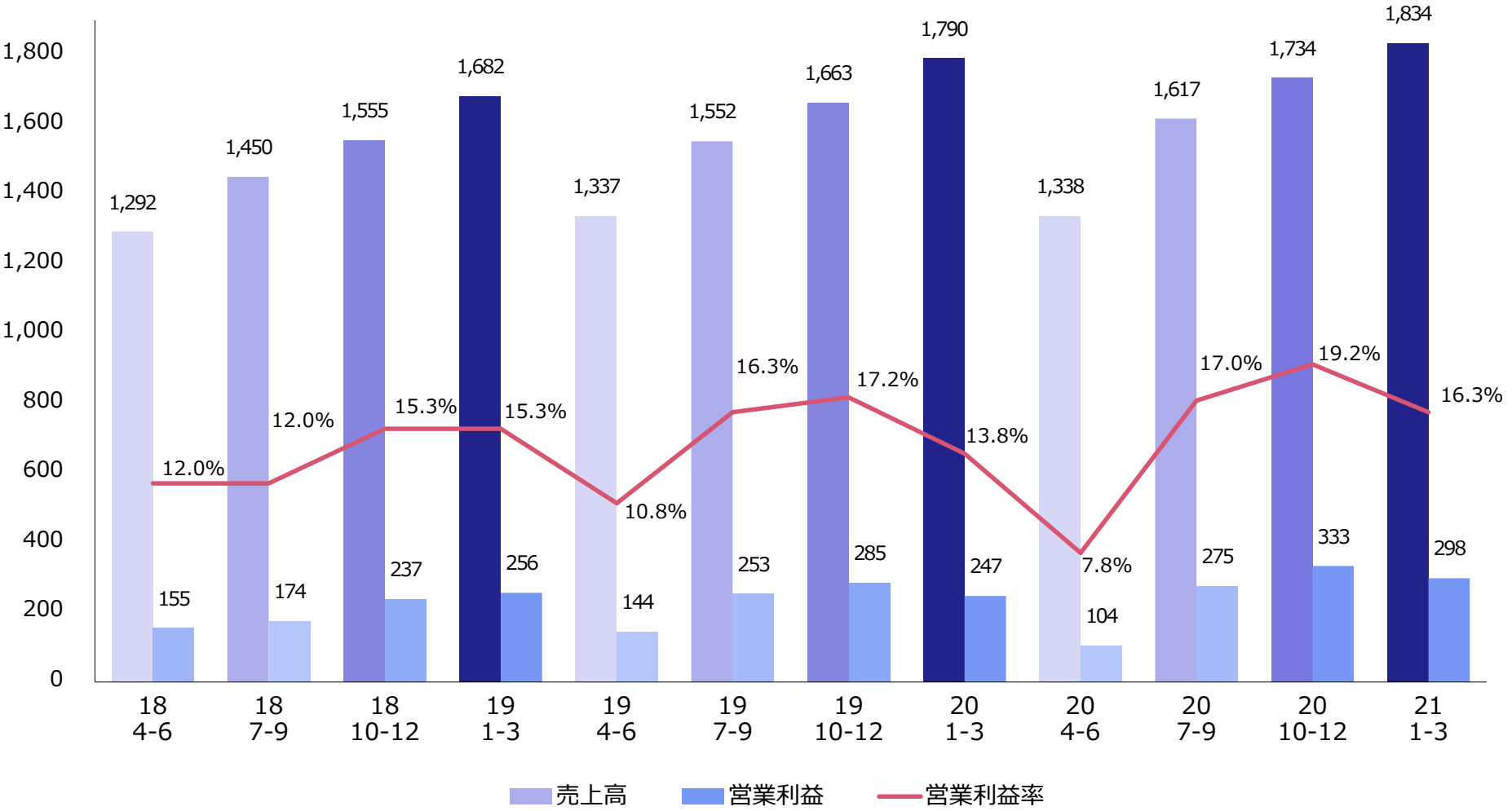
(単位：百万円)



四半期業績推移 (P L)

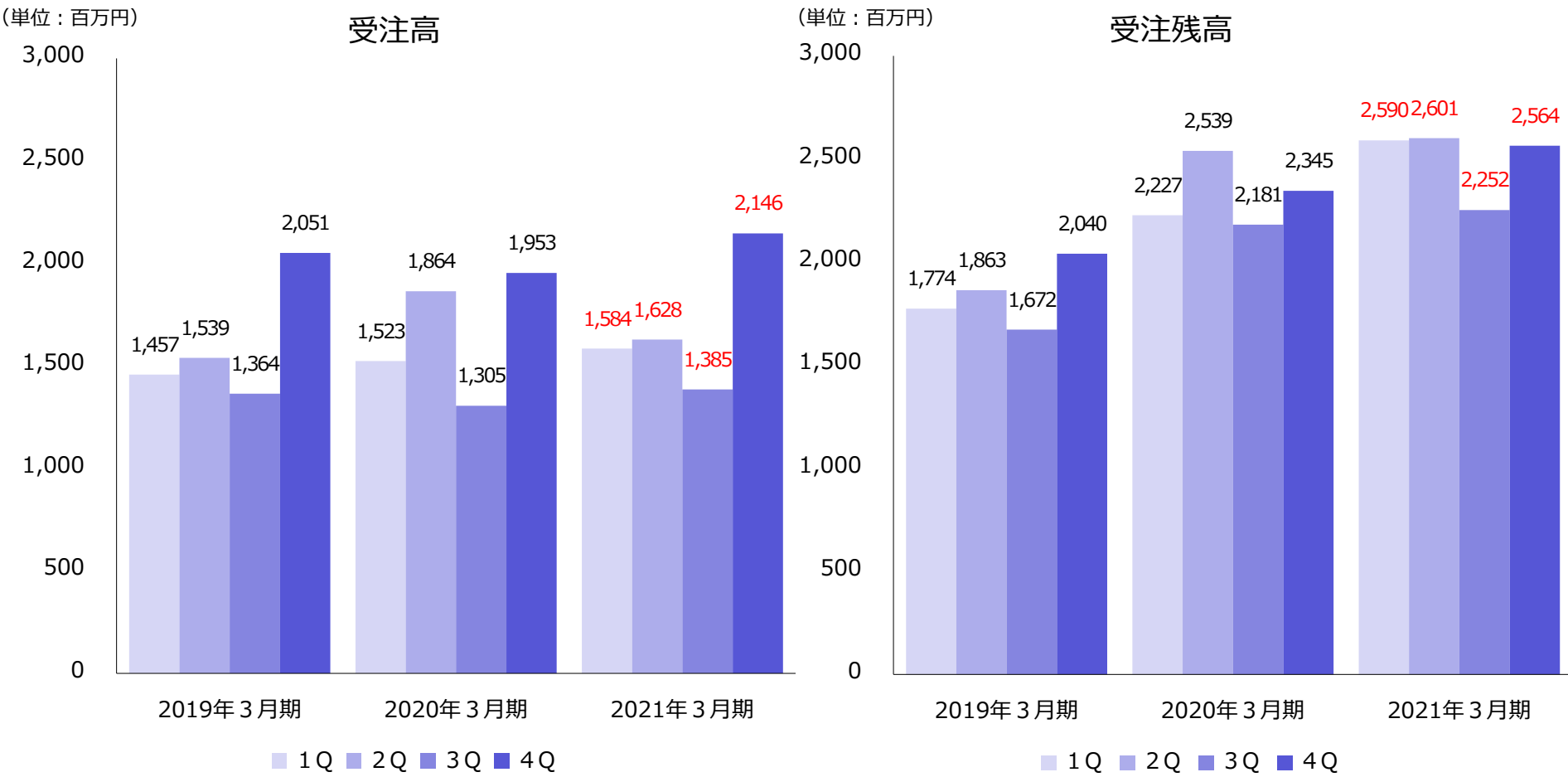
第1四半期は増収減益となったが、第2四半期以降は増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移（受注状況）

受注高は第2四半期を除き過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高



B F 別の状況

宇宙先端システムB F、社会基盤システムB Fが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期		2021年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1, 2 4 3	1 9. 6	9 7 9	1 5. 0	7 8. 8
インターネット	1, 2 2 6	1 9. 3	1, 0 4 2	1 6. 0	8 5. 0
社会基盤システム	1, 7 6 9	2 7. 9	1, 9 8 7	3 0. 4	1 1 2. 3
宇宙先端システム	2, 1 0 4	3 3. 2	2, 5 1 6	3 8. 6	1 1 9. 6
合計	6, 3 4 3	1 0 0. 0	6, 5 2 5	1 0 0. 0	1 0 2. 9

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加したが、モバイル決済関連の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少
- 社会基盤システムBFは、交通分野のモバイル決済関連の開発が減少したが、医療を含めた官公庁系の開発が好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

B F 別構成比

宇宙先端システムB F と社会基盤システムB F が拡大

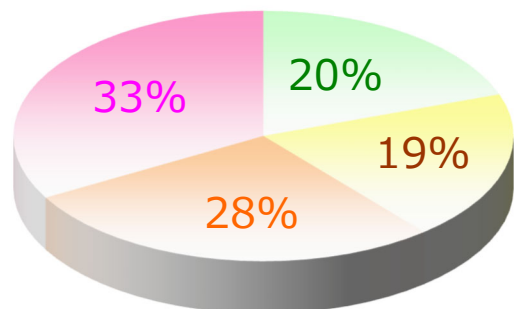
宇宙先端システムB F

車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

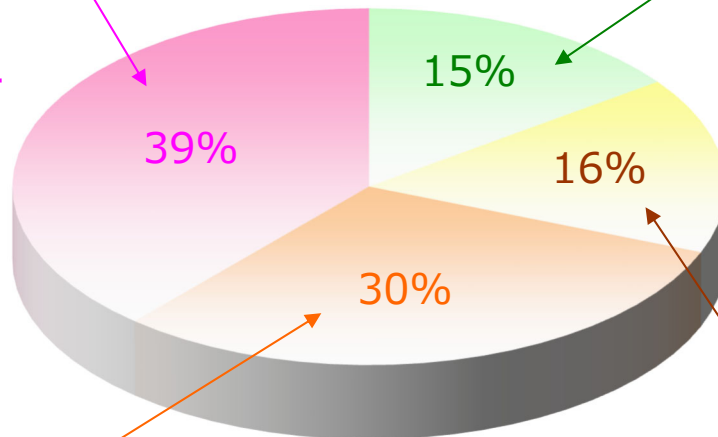
モバイルネットワークB F

移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加、モバイル決済関連の開発が減少

需要構造の変化に応じて
柔軟に対応



2020年3月期



2021年3月期

社会基盤システムB F

交通分野のモバイル決済関連の開発が減少、医療を含めた官公庁系の開発が増加

インターネットB F

民間企業向けの大型案件の開発が減少

BF別受注状況

社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期		2021年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1, 218	299	839	68.9	159	53.3
インターネット	1, 246	293	1, 116	89.6	367	125.2
社会基盤システム	1, 841	1, 161	2, 282	123.9	1, 455	125.4
宇宙先端システム	2, 341	591	2, 506	107.0	581	98.3
合計	6, 648	2, 345	6, 744	101.5	2, 564	109.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,062百万円、前期(2,014百万円)と比較し2.4%の増加)

- モバイルネットワークBFは、モバイル決裁関連の開発案件が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型開発が減少したため、受注高は減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が増加したため、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が増加したため、受注高は増加

ロボットビジネスの状況

実績 (2021年3月期 売上高約 1,712百万円)

← 前年同期約 1,410百万円 ← 前々年同期約 1,137百万円)

サービスロボットの研究開発案件が大幅増、車両自動走行も増加し、全体で前期比21%増

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信、国の研究機関などが大幅に増加
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向が継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

2022年3月期 通期業績見通し

2022年3月期業績見通し

需要環境の変化が継続するものと予想し、売上高は微増の計画

(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,525	6,700	102.7
売上原価	4,676	4,720	100.9
売上総利益	1,849	1,980	107.1
販売管理費	838	930	111.0
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,050 (15.7%)	103.8
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,090 (16.3%)	103.4
当期純利益	727	750	103.1

売上高 前期と同様、需要環境の変化が継続するものと予想し、微増の計画

売上原価 設備投資や待遇向上など人件費の増加を見込む

販売管理費 先端技術の教育拡充、研究開発への投資などにより、増加を見込む

営業外損益 前期並みを見込む

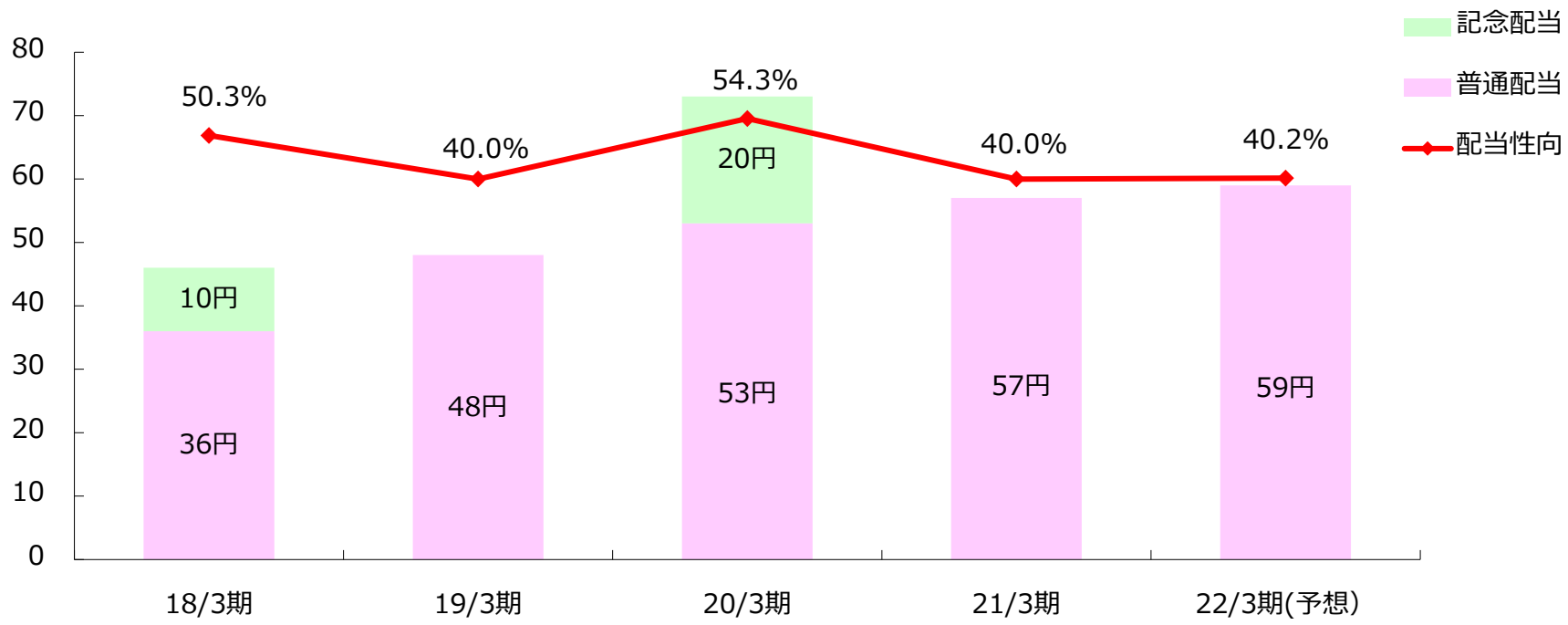
2022年3月期B F別業績見通し

社会基盤システムB F、宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、需要構造の切替時期にあたり、全体では減少	➡
インターネット	民間企業向けの大型案件に不透明感があり、減少	➡
社会基盤システム	医療を含めた官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調で、増加	➡

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2022年3月期は1株当たり59円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。